

ペットといえば、犬！？

～「犬を飼っている」は10人に1人～

国内1,400社超が利用する日用品流通の情報基盤を運営する株式会社プラネット（所在地：東京都港区、代表取締役社長：田上正勝）は消費財や暮らしにまつわるトピックスをお届けする『Fromプラネット』の第178号として、ペット(犬)に関する意識調査の結果をご紹介します。未掲載のデータもご提供できますのでお気軽にお問い合わせください。

■ 「ペット=犬」と連想する人が7割弱

コロナ禍で在宅している時間が増え、ペットへの関心が高まっているとされています。今回は、ペット、特に犬について、人々の意識を探りました。

まず、「ペット」と聞いたとき、どんな動物を連想するかを聞いたところ(図表 1)、「犬」と回答した人が 67.6%と圧倒的多数でした。2位の「猫」と回答した人が 23.7%で、「犬」か「猫」を連想する人だけで90%を超えます。

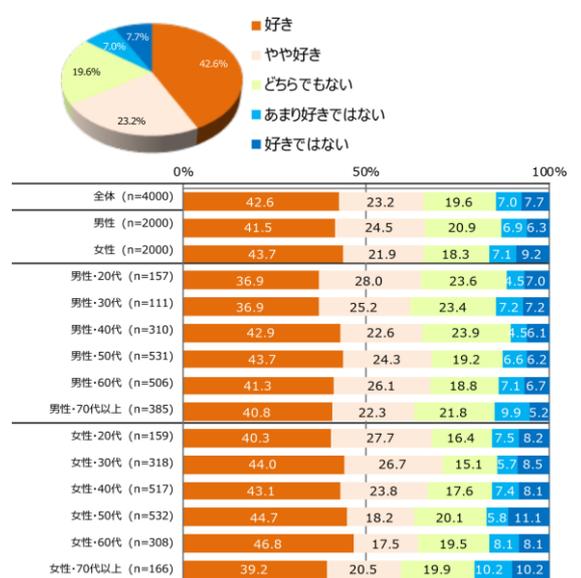
また、犬について、好きか嫌いかを聞いたところ(図表 2)、性別、年代で多少の差はあるものの、どの層においても 4 割前後が「好き」と答えています。「好き」と「やや好き」を合計すると、65.8%、「嫌い」と「あまり好きではない」を合計すると、14.7%です。

多くの人にとって、犬が身近で、ポジティブな存在だということがわかります。

図表 1「あなたは『ペット』と聞いたとき、何を連想しますか。最も当てはまるものを教えてください。(お答えは1つ)」への回答



図表 2「犬について、あなたのお考えに当てはまるものをお選びください。(お答えは1つ)」への回答



■ 犬を飼っている人と猫を飼っている人、ほとんど差はなし

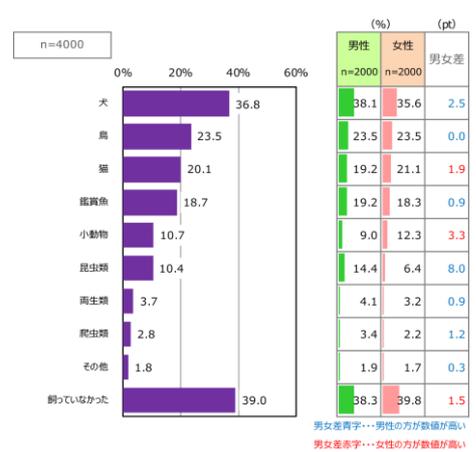
現在飼っているペットを聞いたところ(図表 3)、「犬」が 12.8%、「猫」が 11.2%と、犬と猫であまり差がありませんでした。にもかかわらず、「ペットといえば、犬」というイメージを多くの人を抱いているのはなぜでしょうか。

理由のひとつは、過去の経験にありそうです。子ども(12歳以下)の頃、飼ったことのあるペットを聞くと(図表 4)、「犬」が 36.8%、「猫」が 20.1%と、差が大きくなりました。また、「鳥」(23.5%)が「猫」を上回っていますが、男女ともに 40 代以降の人は「鳥」を飼っていたという人が多く、70 年代の文鳥ブームなどの影響が考えられます。

図表 3 現在飼っているペット(複数回答可)



図表 4 子ども(12歳以下)の頃、飼ったことのあるペット(複数回答可)



■ 「男性・20代」の2割が犬を飼っている

犬や猫を現在飼っているか、子ども(12歳以下)の頃に飼っていたかを、性年代別に見てみます(図表5)。

現在、犬を飼っている人の割合は、年齢が若いほど高い傾向にあり、「男性・20代」が21.7%で最高で、「女性・20代」も17.6%と、ほかの層と比べて高いです。

子どもの頃に犬を飼っていた割合は、男女ともに60代以上で4割を超えているのですが、現在飼っている人の割合は、「男性・70代以上」「女性・60代」「女性・70代以上」の3つの層では10%を切っています。

「猫」については、「犬」と比べると性年代別での差は小さいです。「70代以上」が男女ともに現在飼っている割合が最も低くなっているのは、「犬」と共通です。

子どもの頃、犬や猫を飼っていた人の割合は、50代以上と比べて、20~40代で低くなっていますが、ペット全般についても、男女ともに20~40代は子どもの頃に飼っていた割合が全体平均を下回っています。

■ 犬との出会い「もらった」が最多

次に犬を飼い始めたきっかけを聞きました(図表6)。最も割合が高かったのが「人からもらった」(44.6%)で、次が「店舗(ペットショップ等)で買った」(29.7%)でした。この2つの項目については、「人からもらった」は年代が上になるほど多く、「店舗(ペットショップ等)で買った」は年代が下になるほど多いという、真逆の傾向がありました。最近では「保護犬」という言葉をよく聞くようになりましたが、「保護犬を引き取った」ことがきっかけになった人は4.3%と、全体からするとまだ低い数字です。

今度は逆に、犬を飼っていない人にその理由を聞きました(図表7)。

「犬が好きではないから」という人が11.4%いるのですが、それよりも高い割合の項目が6つあります。最も多くの方が理由に挙げたのは「世話をするのが大変だから」(34.2%)でした。2位の「金銭的な余裕がないから」(24.3%)、5位の「ペット禁止の物件に住んでいるから」(15.9%)のように、環境的な要因も理由に挙げられています。3位の「散歩が大変だから」(23.0%)、4位の「室内飼いは大変だから」(17.3%)、6位の「しつけが大変だから」(15.1%)も上位になっていることから、飼育をためらう要因は環境ばかりではないようです。

7位の「ペットロスを経験してつらかったから」(10.8%)は男女間の差がほぼないという点で印象的です。

図表5 犬や猫を飼っているか、飼っていたか

	全体(人)	犬(%)		猫(%)		ペット全般(%)	
		現在飼っている	子どもの頃に飼っていた	現在飼っている	子どもの頃に飼っていた	現在飼っていない	子どもの頃に飼っていない
全体	4000	12.8	36.8	11.2	20.1	71.4	39.0
男性・20代	157	21.7	29.9	15.9	10.2	64.3	47.8
男性・30代	111	16.2	30.6	6.3	12.6	73.0	45.9
男性・40代	310	15.5	31.0	11.6	12.9	68.4	44.5
男性・50代	531	13.2	36.3	13.7	17.5	66.5	36.7
男性・60代	506	13.2	42.5	9.1	23.9	72.5	35.4
男性・70代以上	385	7.0	45.7	6.0	25.7	82.3	33.0
女性・20代	159	17.6	24.5	14.5	11.3	66.0	51.6
女性・30代	318	12.9	31.1	11.0	19.2	71.1	43.7
女性・40代	517	11.8	30.8	10.8	19.9	71.0	40.0
女性・50代	532	13.5	36.3	13.2	21.6	69.9	35.2
女性・60代	308	9.7	48.4	12.3	28.6	73.4	34.7
女性・70代以上	166	9.0	43.4	9.6	21.7	76.5	44.0

赤字：全体より5pt以上高い／青字：全体より5pt以上低い

図表6「あなたが犬を飼い始めたきっかけを教えてください。(お答えはいくつでも)」への回答(年代別)

n=1661	年代(%)						
	全体	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人からもらった	44.6	32.7	33.1	38.6	44.6	47.0	59.4
店舗(ペットショップ等)で買った	29.7	38.3	36.9	34.0	29.4	27.6	20.7
拾った	14.8	9.3	14.6	15.8	13.8	18.8	11.1
人から買った	7.2	10.3	9.6	7.9	5.7	7.3	5.7
家族から引き取った	5.1	8.4	5.1	5.0	4.1	5.5	4.6
保護犬を引き取った	4.3	12.1	9.6	3.3	3.9	2.5	2.7
亡くなった人から引き継いだ	0.6	1.9	1.9	0.0	0.2	0.5	0.8
その他	4.2	3.7	3.8	3.3	4.6	4.5	4.6

図表7「あなたが犬を飼わない、または現在飼っていない理由を教えてください。(お答えはいくつでも)」への回答



■ 犬の寿命は徐々に伸びている

犬を飼わない・飼っていない理由として、「自分の健康に不安があるから」と回答した人が 7.3% いましたが(図表 7)、ペットを家族の一員として考えると、自分の健康も、ペットの健康もどちらも気になるものでしょう。

飼っている犬の年齢(複数いる場合は最年長の年齢)を聞いたところ(図表 8)、最も多かったのが「10～15 歳未満」(27.0%)でした。

一般社団法人ペットフード協会による「2021 年全国犬猫飼育実態調査」では、犬全体の平均寿命は 14.65 歳となっています。同調査によれば、2010 年からの約 10 年で、犬全体の平均寿命が 0.78 歳伸びているそうです。

ペットが長生きしてくれることはありがたいことですが、人間社会の高齢化同様、犬の高齢化によって、生活習慣病や認知症への対処など、これまでになかった新たな問題が生まれています。

また、のちほど紹介しますが、「ペットよりも先に自分の寿命が来ると思うから、新しくペットを飼うのがためらわれる」と感じている年配の人は少なからずいるようです。

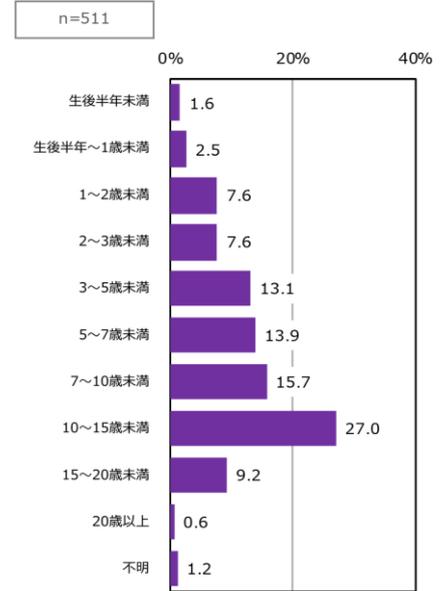
■ どうせなら大型犬を飼ってみたい？

これまでに飼ったことがある犬種を聞いたところ(図表 9・左)、「柴犬」(18.8%)、「ミニチュア・ダックスフンド」(8.8%)、「トイプードル」(7.0%)、「チワワ」(6.5%)、「マルチーズ」(5.3%)といった小型犬が上位を占めています。

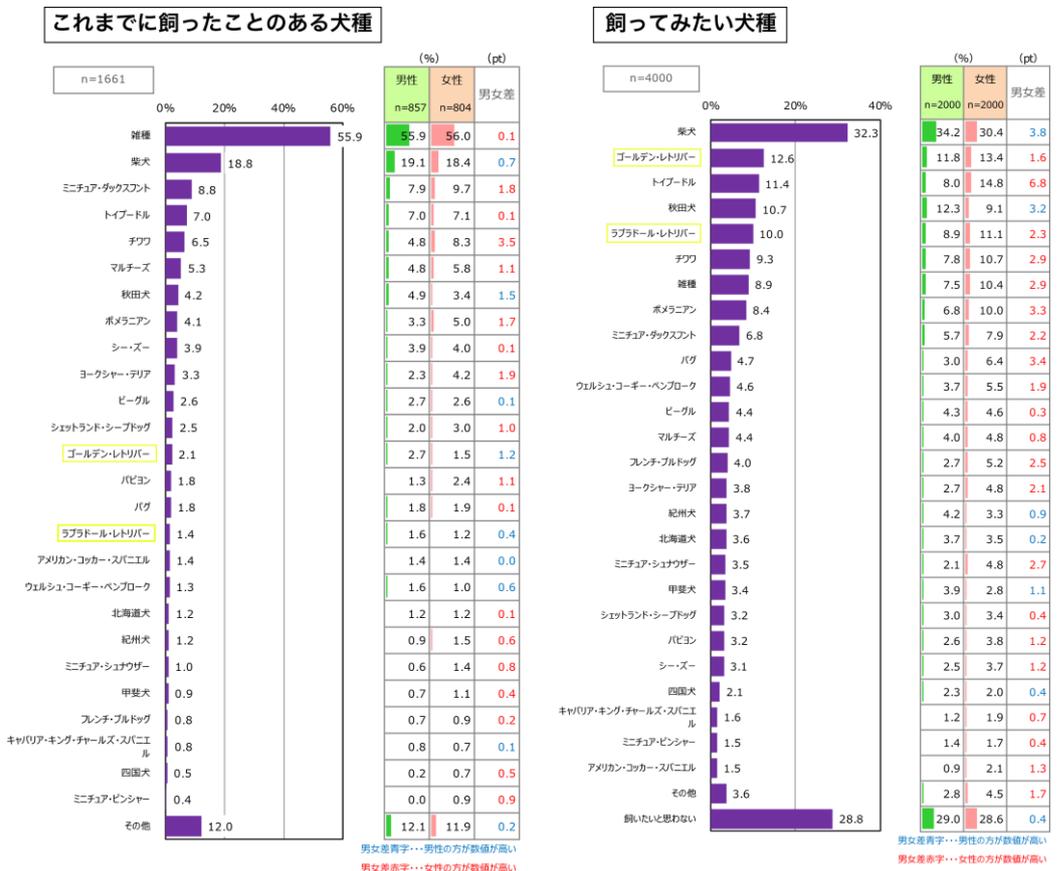
さて、「犬が好きではない」以外にも、犬を飼わない理由がたくさんありましたが、住環境や経済的な事情、家族構成など、様々な要因から、これまで飼ったことのある犬種と何の制限もない場合に飼ってみたい犬種に違いがあることが考えられます。

実際に質問してみると(図表 9・右)、たとえば、飼ってみたい犬種で 12.6% の人が挙げた「ゴールデン・レトリバー」ですが、実際に飼ったことがある人は 2.1% です。「ラブラドル・レトリバー」も同様に、飼ったことがある人は 1.4% で、飼ってみたい人は 10.0% と差があります。同じ大型犬では、「秋田犬」も少し順位を上げています。中型犬や小型犬の順位があまり変わっていません。変わっていても差があまりなかったり、というのと比べると、「制限がないなら、大型犬を飼ってみたい」と考えている人は少なくないようです。

図表 8「あなたが飼っている犬は何歳ぐらいですか。複数匹飼っている方は、最も年長の犬について教えてください。(お答えは1つ)」への回答



図表 9 飼ったことのある犬種と、仮に何の制限もない場合に飼ってみたい犬種



■ ペットを迎える = 家族が増える

ペットに関する思い出やエピソードを自由回答で聞いたところ、現在進行系で「楽しい」「幸せだ」という声もあれば、亡くなってしまったペットとの思い出も含め、ペットとの絆や、家族とペットとの絆を感じさせる話が多く寄せられました。家族の一員と感じている人が多いからこそ、たくさんの思い出があり、大事にしたいという気持ちがあるのと同時に、ペットロスがつかった、という声も。ただ、新たにペットを迎えたり、よそのペットと触れ合うことで、傷を癒している人もいます。気がかりなのが「しつけのできていないペットに迷惑をかけられてから、いい印象を持てなくなった」「無責任な飼い主を見ると、不幸なペットを生まないために、ペットショップはないほうがいいのではないか」という意見もあったこと。自分とペットの関係だけでなく、周囲や社会との関係も考えなければいけないのかもしれない。

《ペットに関する思い出、飼い始めたきっかけ、ペットを飼う気になれない理由》

【ペットは家族の一員】

- ペットショップで犬を抱っこしたときに飼いたいと思った。家族みんなで話し合い、協力して飼うことを決断。犬がいると生活は規則正しくなり、散歩もするので運動にもなる。さらに家族との会話も増えた。大事な家族です。(女性・50代)
- 子どもたちが進んで猫のお世話などしてくれて、とても面倒見がよくなった。まだ小さい子供たちにもこんな一面があるのかと思った(女性・30代)
- 家の購入をきっかけに犬を飼い始めた。子どもが一人っ子なので、新しい兄弟ができたようだ。(男性・40代)
- 子どもは嫁に行ったが、その子が買ってきたミックス犬は今でも家にいて、孫のような存在です。(女性・50代)
- ペットショップで一目惚れして、一晩考えた末に家族に迎えた犬は、大事な家族としてたくさんの思い出ができました。今は目の前にはいませんが、近くにいてくれる気がして、次の犬を迎える気持ちになれません。生まれ変わってまた我が家に来てくれたらいいなと思います。(女性・30代)

【ペットとの出会いはさまざま】

- 親が買ってきた犬は好みの犬種ではなかったが、今では大事な家族。(女性・20代)
- ペットショップで売れ残っていたから迎えたが、今では本当になくってはならない存在になった。(女性・20代)
- 保護猫を飼わないかと声かけられて飼い始めた。今では離れられない。(女性・50代)
- 野良猫が毎日家に来るうちに、どんどん懐いてきた。とてもかわいしいし、心配だし、もう離れられなくなってしまっって飼うことになった。(女性・30代)
- 賃貸マンション住まいのため、動物を飼うことは諦めていたが、散歩中に生後間もない子猫を2匹見つけ、行きがかり上、飼うことになった。それから10年、これまでもこれからも、ずっと大切な家族。(男性・50代)
- 幼少期、一人っ子の私を不憫に思った祖父がホームセンターでウズラを買ってきてくれた。それをきっかけに鳥が好きになり、鶏やインコやカナリアも飼った。中学の頃、玄関に迷い込んできた子猫も飼った。(女性・30代)
- 昨年、15歳のチワワが虹の橋を渡り、天国へと旅立ちました。ペットロスになり、何も手に付かない毎日を送っていましたが、見かねた友人が保護猫を連れてきてくれて飼いはじめました。別れがあれば出会いもあると思えるようになりました。(女性・60代)

【好きだし、飼いたいけれど】

- 猫が好きだが、旅行が好きだし、ペット可能物件で家賃が手頃なところがなさすぎる。(女性・20代)
- 飼いたい気持ちはあるが、実際今まで飼ったことがないので、何が必要か、どれくらいお金がかかるのか、どんなことが起こるのか、どんな準備が必要か分からない。責任も重しいし、おそらく死を経験しなければならないということに耐えられない気がする。(女性・30代)
- ペット関係のお仕事をしている知人がいて、無責任に飼いはじめる人の話をたくさん聞いた。自分がちゃんと面倒を見られるのか考えると、私には飼えない。(女性・30代)
- 今までいた犬との思い出は大切な宝物です。犬を飼いたいと思うけれど環境と自分の年齢を考えると無理なので、身近に短期のレンタルがあったら本当にいいと思います。(女性・60代)

《 「ペット (犬)」に関する意識調査 質問一覧 》

- Q1.あなたは「ペット」と聞いたとき、何を連想しますか。最も当てはまるものを教えてください。(お答えは1つ)
- Q2.犬について、あなたのお考えに当てはまるものをお選びください。(お答えは1つ)
- Q3.あなたは、現在ペットを飼っていますか。またあなたが子供(12歳以下)の頃、飼ったことのあるペットを教えてください。(お答えはそれぞれいくつでも)
- Q4.現在犬を飼っている方にお伺いいたします。あなたに最も当てはまるものを教えてください。(お答えは1つ)
- Q5.子供(12歳以下)の頃、犬を飼ったことがあるが、現在は飼っていない方にお伺いいたします。あなたは現在、「犬を飼うかわりに」という思いで飼っているペットがいますか。(お答えはいくつでも)
- Q6.あなたが犬を飼わない、または現在飼っていない理由を教えてください。(お答えはいくつでも)
- Q7.あなたが飼っている犬は何歳ぐらいですか。複数匹飼っている方は、最も年長の犬について教えてください。(お答えは1つ)
- Q8.あなたが犬を飼い始めたきっかけを教えてください。(お答えはいくつでも)
- Q9.あなたがこれまでに飼ったことのある犬種を教えてください。(お答えはいくつでも)
- Q10.仮に何の制限もない場合に、あなたが飼ってみたい犬種を教えてください。(お答えはいくつでも)
- Q11.ペットを飼い始めたきっかけや、ペットを飼う気になれない理由、ペットに関する思い出などを教えてください。(お答えは具体的に)

調査機関:株式会社プラネットによる調査企画のもとに、株式会社ネオマーケティングにて「ペット(犬)」に関する意識調査を実施。
期間:2022年3月3日～7日、インターネットで4,000人から回答を得ています。

株式会社プラネットとは <https://www.planet-van.co.jp/>

メーカー、卸売業、小売業がサプライチェーンとして連携し、生活者へのサービス向上を目指して進化を続ける日本の消費財流通を、情報インフラ運営で支えている上場企業(証券コード2391)です。

From プラネットとは https://www.planet-van.co.jp/news/from_planet.html (バックナンバーもご覧になれます)

株式会社プラネットが発信しているニュースレターです。消費財や暮らしに関する旬なトピックスなどをご紹介します。

本件に関するお問い合わせ先

(感想や取り上げてほしいテーマなどもお寄せください。今リリースに掲載していない結果や属性データもご紹介できます)

株式会社プラネット 広報部(河合、角田^{つのだ})

E-mail: koho-pr@planet-van.co.jp